

## 平成28年度第2回日進市特別職報酬等審議会議事録

日 時	平成28年11月17日(木) 午後1時15分から午後2時48分まで
場 所	市役所 本庁舎4階 第2会議室
出席者	委員：續伯彦委員、山本恵委員、市川豊委員、水嶋義弘委員、武山尚生委員、土井徹委員、 岩月ミサヲ委員、鈴木絹子委員、生田ふみ委員、水藤雅詳委員 事務局：企画部長 金山敏和、企画部調整監 小林正信、人事課長 牧野かおる、同補佐 山田 和典
欠席者	無
傍聴の有無	無
開会	
会長挨拶	挨拶
議題：特別職報酬等の額について	
会 長	前回の審議では、昨年度まとめた答申内容の考え方は妥当ではないかという方向となったが、比較対象としている同規模自治体の状況も変化しているため、変化の分かる資料を改めて事務局に依頼して作成いただいたため、資料の説明をお願いします。
事務局	資料の説明を行う。
会 長	只今の説明で分かりにくい点、質問があればお願いします。事務局の説明は、前半が昨年度の考え方の説明と、平成28年度と同規模自治体の実情をお示しいただいて、同規模自治体にどれくらいの変化があったかを比較いただき、後半は、財政等資料から市行政が安定的な運営を行っているか、全国で見た場合のポジションがどれくらいかをまとめた資料となっています。特にご意見がなければ、審議を進めていきたいと思えます。諮問では、議長・副議長・議員の次に市長・副市長・教育長となっていますが、市行政のトップである市長の給料が議論の焦点になると思えます。そのため、市長・副市長・教育長の給料の考え方を先に決めるほうが、議論が遠回りにならないと思えます。資料6・7ページのとおり、市長・副市長・教育長の給料比率をどうするかについては、審議会が関与するのは大変難しい問題であり、1・2回の審議で決着できる問題とも思えません。そこで、過去の給料比率の方針を維持することが穏やかであるだろうということだったかと思えます。それに沿って、まず市長の給料をどの程度とするかを考えたうえで、後は機械的で申し訳ないが、比率に当てはめて副市長・教育長の額を答申したらどうかというのが、昨年度の議論の骨子だったということの説明いただきましたが、その考え方でよろしいですか。市長の給料の議論を中心に据えて、副市長・教育長が市長と比べてどうかという議論をしていくのではなく、過去の給料比率を尊重してはどうかということだったかと思うが、その考え方でよろしいでしょうか。問題ないとすれば、その枠組みで市長の給料額をご審議いただいて、

	副市長・教育長の額は自動的に決まることとなります。その市長の給料の審議の中で の考え方を、議長・副議長・議員の考え方のベースにしていくという審議の進め方が 処理しやすいかと思います。この進め方でよろしいでしょうか。
委 員	(各委員からの異議なし)
会 長	資料 8 ページの県下特別職支給年額一覧表 (37 市) に、ピンク色・緑色・黄色と 表示されており、ピンク色が現在額で、緑色が前年度答申額、黄色が前年度の基準を 今年度の状況にあわせて改定した額ということだと思いますが、これがひとつの目安 になると思います。前年度の答申について、前回審議会で副市長からお話があったよ うに、日進市としては、財政状況の安定的な推移を確認したうえで、答申を受け入れ たいということでした。前年の審議では、2 か年の傾向は捉えてあったので、引上げ の結論としたが、更に慎重にお考えになって、せっかくご審議いただいた内容だけれ ども、据え置き判断をしたということでした。考え方の方針は、市にもご理解いた だけているけれども、実施するしないの情勢判断において、市当局が少し慎重な姿勢 をお示しになったというのが現状だと思います。そうなりますと、考え方を改めてと いうことではなく、市の判断のあり方も含めて、どの位の答申を出すべきなのか、答 申を出す立場としても、せっかく出す答申を実施していただきたいですから、市の意 向にある程度配慮したうえで、議論を進めるのが現実的な考え方かなと思います。し かし、議論を縛るわけではありませので、委員の方々にご意見があれば、意見をお 願います。これまで確認した経緯から、前年度答申の基本的な考え方は市当局にも ご理解いただいていると踏まえてよろしいかと思います。しかし、基本的な考え方か ら考え直したほうが良いのではないかというご意見があれば、ご意見を賜りたいと思 います。
委 員	前回の審議会でくるりんばすの値上げのことを言いましたが、その点は関係ないと 言われました。それはおかしくないですか。くるりんばすが値上げされるというこ は、市民ファーストから外れるのではないですか。そういうことを行うということは、 財政が悪くなっているということですか。今年度の見込みはどうなっているのですか。
会 長	その点は事務局に聞かないとお答えできません。
委 員	平成 28 年度の財政見込みはどうなっているのですか。それが悪くなるから、くる りんばすを値上げするということですか。その見込みが立っていないのであれば、非 常に雑だと思えます。くるりんばすのようなサービスを低下させて、それは関係ない として、市長及び議員の給料を上げる上げないと議論するのはおかしくないですか。 そういった点を含めて全体を考えて議論すべきではないですか。昨年度から同規模自 治体の比較ばかりをやっていて、もっと全体的なことを考えていかなければなら ないのではないですか。
会 長	議論を整理させていただきますと、1 点目が、今年度財政見込みがどうなっている か説明してほしいという点です。もう 1 点のくるりんばす事業の収支がどうなってい

	るかという問題と、市財政全体がどうなっているかという問題のバランスは、直結する議論では必ずしもないと思います。
委員	直接には関係ないかもしれませんが。しかし、財政が悪くなるから、くるりんばすを値上げするのではないですか。
会長	事務局には、今年度の財政全体のトレンドはどうなっているのかについてご回答いただけると大変ありがたいです。
委員	今年度のトレンドですね。赤字に転落するから、くるりんばすを値上げするのですか。
事務局	税収の上半期、9月までの納税額については、前年より1億円を少し超える額が増えています。補助金関係は事業によって上下しますので、個人市民税・法人市民税・固定資産税が主なものとなりますが、それらについては、本年度9月末の数字としては、前年より1億円を少し超える額が増えています。
会長	財政規模全体からいうと、1億円というのはどれ位の比率になりますか。全体の財政規模は日進市の場合は、どれ位になりますか。
事務局	資料22ページの決算額をみていただきますと、約400億円ということになります。
会長	400億円の1億円という0.25%ですね。増にしても減にしても、非常に堅調であるといえると思います。色んな事業と個別の事業の収支バランス、つまり総事業400億のどこに凸凹が生じているかは、それぞれに議会でご検討いただくことになるかと思っています。たしかに、ご指摘のあったように、一方でサービスのコストを高めているのではないかと、大丈夫なのかという点は、ひとつのポイントとしては、ご指摘のとおりだと思います。ただ、それが全体像であるといってしまうのは、考え方としてはきびしいのではないかと思います。様々な事業の適切なバランスをとるとするのは、市に限らず、様々な事業体でも取らざるを得ないことです。この状況のなかで、くるりんばすの値上げが妥当かどうかという問題についてであれば、しかるべき場所で議論があつて良いと思いますが、市長等の報酬審議の場において、大きな影響を配慮すべきものなのかという少し無理があるのかなと私自身は感じています。ただ、特に本年度の財政状況のトレンドを踏まえて考えるべきという前半のご指摘は、まさに正論であります。ご指摘に基づいて、事務局から示したいただいた内容から考えると、特に急激な財政悪化が起こっている状況ではなく、むしろトレンドとしては、従来のトレンドを守っていると読み取れさせていただくほうが合理性が高いと思いますが、よろしいでしょうか。
委員	(各委員からの異議なし)
会長	それでは資料8ページに戻りたいと思います。先ほど委員から指摘があったように、単に過去の比較だけではなくて、少なくとも現状を踏まえて、市の全体像を把握すべきではないか、また、個別の事業のレベルも必ずしも全ての事業がうまくいっているわけではないという指摘を踏まえて考えていきたいと思っています。この表で、緑色で示された額が、前年の審議会として、市長の給料額として適切であると答申した額だが、市は、

	<p>計算の根拠・考え方には異論はないけれども、市の財政のトレンドをもう少し確実なものとして捉えたうえで、答申実施に移りたいという回答でありましたから、それを踏まえ、28年度の現状は、他市がいくらか市長給料を引き上げており、前年度答申額より平均が上がっているため、それに追随するべきか、あるいは、前年度答申の実施をまず求めるほうが妥当性が高いかというところが、おそらく議論の分かれ道になるかと思えます。この点については、率直にみなさまのご意見を伺ったほうがよろしいかと思えます。一応、論点は整理させていただいたつもりです。違った意見があればもちろん結構ですが、日進市の財政トレンドは、今年度何か問題を抱え始めたという兆候を認めるレベルではありません。</p>
委員	<p>一言申し上げます。よろしいですか。前年度も言いましたが、市長の給料は少なすぎるのもっと上げて良いと思います。少なくとも、大府市の次まで引き上げて良いと思います。大府市が引き上げたか分かりませんが、大府市が一番良いわけですから、大府市の次で良いと思います。少なくとも、尾張旭市・北名古屋市よりは、引き上げて良いと思います。今年度財政がよければ、どんどん引き上げるべきだと思います。それだけの仕事をやっているのですから、どんどん引き上げて良いと思います。</p>
委員	<p>引き上げ方としては、2種類ぐらいかと思えます。過去をみてみますと、一度に引き上げるのではなくて、目指すべきところに少しずつ引き上げていくという方法もあると思います。財政上の見通しで不安があるのであれば、同規模自治体の状況を見ながら、一つか二つ上げるという方法もあるかと思えますが、前年度と同規模自治体の平均をとるという考え方について、市側で特に異論がないというのであれば、平均額まで引き上げれば良いと思います。その根拠としては、やはり住みよさや財政面で順位は高かったけれども、住居の面等で問題があったかと思えます。そうすると、そういう面での憤まん等を解消していくために、仕事自体が増えていくという部分があると思いますので、そういう点を踏まえて、ある程度の幅で引き上げていただければ良いと思います。前年度も上げる上げないが問題でペンディングになったのであって、考え方に異論がなかったのであれば、同規模自治体の平均で良いと思います。前年のものではなく、計算の手法としては、現在の段階での平均という捉え方で良いと思います。</p>
会長	<p>資料8ページでいうと、どこになりますか。</p>
委員	<p>黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）で良いと思います。今年の審議ですので、今年の平均で問題ないかと思えます。</p>
委員	<p>前日も申し上げたとおり、答申としては同規模自治体の平均で良いと思います。他の市で引き上げられた市もありますので、その点の見直しをして答申したらどうかというのが基本的な意見であります。しかし、果たして日進市が平均で良いのかなと思っています。同規模自治体の経常収支比率とか財政力指数をみると、もう少し上であっても良いのではないかと思います。平均というのが、審議会として少し無責任な答申にならないかなと思ったのですが、基本的には、同規模自治体の平均で良いと思います。</p>

委員	基本的には、みなさんと変わらない意見です。前年度からの変更があって、新しく黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）の欄ができて、9千円の差額をどう考えるかという点を含めて議論に参加させていただいています。副市長がお見えになって、財政の先行きが不透明ということがあって、1年先に延ばされたということだが、議員も同じ意向という解釈でよろしいですか。
事務局	はい。
委員	本年度は財政も健全な形となっていることを把握させていただきました。選挙がある度に公約で下げたり、1年の特約で下げたりということがあります。日進の場合には、報酬を下げて推移してきた部分もありますので、議論をさせていただきながら、一番良い形の答申ができればと思います。基本的には、答申どおりの形で良いのではないかと思います。
会長	今年度答申としては、今年度と同規模自治体の平均をひとつのターゲットとするというみなさんのご意見と同じということでもよろしいですか。
委員	はい。
委員	みなさんの意見を聞かせていただいたうえで、資料を見させていただくと、私も同規模自治体の平均が最低ラインで、更にその上でも良いのかなと思いました。
会長	先ほどご意見を伺いましたが、答申額を決める考え方については、どうですか。
委員	結果的には、同規模自治体と同じ位の数字で良いと思います。
会長	黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）で良いということですか。
委員	はい。黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）か、もしくは多少さらに上でも良いと思います。大府市よりは下に、尾張旭市・北名古屋市等よりは上というのが私の意見であります。財政が良ければ、現在下位のほうにいますので、引き上げることに問題はないと思います。
委員	今は市長の議論から入っていますが、これにスライドして議員・職員の給料を上げる際の基本になるものとして理解してよろしいでしょうか。そういった意味で、どちらかというと私は市民レベルのほうから、市民に近い立場で、実市民に直結するような仕事をしている議員や職員の給料の額が上がれば良いなと思いましたので、その基本になる市長ということでしたら、今回引き上げるべきと思います。資料6ページの折れ線グラフで示された内容を参考としました。平成の最初のほうは、毎年度のように引き上げがされていますが、それ以降は、毎年度変動するという経緯はないようですので、中長期において、大きな財政の変動が予想されることがないのであれば、今年度、市長の給料を基準にして引き上げることは意義があることなのかなと思います。ぜひそうすべきとまでは、今回では分からないですが、事務局の資料説明や今までの議論からすると、引き上げる時期にはあるのかなとは思いますが、また、あまり他市と競争することではないですが、やはり大事な指数・ベースになるとは思いますが。
会長	具体的なターゲットとして選ぶとすれば、資料8ページの表でいうと、黄色（平成2

	8年度の同規模自治体平均額)の線が適切ではないかということによろしいでしょうか。
委員	はい。
事務局	職員の給与の話がありましたが、職員の給与は、市長給与や議員報酬に連動しているわけではありません。国家公務員の給与の引き上げ等を勧告する制度があり、この勧告に基づき国家公務員給与は引き上げとなっており、職員の給与は国家公務員の給与に準じているため、市長給与等に連動しているわけではありません。ここ数年は、国家公務員が引き上げられているため、それに準拠して市の職員給与も引き上げを行っています。
委員	その時の参考指数にならないということではないですよね。
事務局	人事院勧告の内容は、報酬審議会でもご報告させていただいており、今年度も引き上げとなっております。
会長	前回の資料に人事院勧告の説明があります。
委員	財政状態が非常に健全ということで、黄色(平成28年度の同規模自治体平均額)の線で良いと思います。
委員	第1回目の副市長の報告が気になっております。この資料を見ますと、日進市は健全だと思えますが、やはり副市長は引かかるものや不安な部分があるのかなと思いますので、緑(平成27年度答申額)の線で良いと思います。
副会長	前年の審議から1年が経過し、何が変わったのかを整理してみますと、先ほど話にも出た人事院勧告は、民間を少し後追する形で動きます。つまり、民間の状況をみて人事院勧告に反映されるまでに少しタイムラグがあります。ただ、その状況からすると、様々な目線や置かれた状況の違いはありますが、人事院勧告は引き上げになったということで、そういう風はあるのかなと思います。もう一つは日進市の独自の状況ですが、財政力指数はたしかに非常に良いと思いますので、その点を勘案すると、黄色(平成28年度の同規模自治体平均額)の線が妥当だと思います。ただ、個人的には、日進市は人口も増えていきますし、財政力指数が良いなかで、市民へのサービスが確実に行われているのであれば、もっと引き上げて良いと思います。ただ、言葉の使い方が難しいのですが、基準を使うしかしょうがない部分があると思います。企業と違い、いくらお金を使っていっていくら儲けるといった具体的なアラビア数字が出るわけではないので、アラビア数字をどこにするかというのは難しく、今後の課題だと思います。ベストではないけど、ベターな選択だと思っています。
会長	みなさんの意見のなかで、やや慎重なご意見もありましたが。
委員	いろんな方から何うのですが、議員においては、割と若返りをしました。女性の方も増えて、男性の方も色んな仕事をやっているように変わってきているので、引き上げてもとは思いますが。ただ、全体から見て、税金等は安定しているとはお聞きしましたが、やはり引かかる部分があります。

<p>会 長</p>	<p>トレンドは明らかだと思いますので、少し補足意見を言わせていただきます。見かけ上、かなりの額を引き上げる方向にならざるを得ない点について、今までご指摘が足りなかったと思うのは、日進市が従来、地域手当を市長にもお支払していたのをやめて、給与が大幅に下がった点です。給料で見ると、全く変わっていないが、年額で見ると大幅に下がっている点があり、それを一度にリカバーするか、段階的にリカバーするかということのひとつの目安として、同規模自治体の年額の平均がターゲットというのが前年の議論であります。この審議会が決めなければならないのは、給料であって、地域手当のことは対象ではないが、実質年額で水準は維持していただきたい、日進市の行政の現状からみて、むやみに低減を主張される根拠はないのではないか、他市と比べて平均的それ以上の働きをしており、給料で受け取っていただいて問題ないのではないかというのが前年度の議論だったと思います。審議会としては、実質年額をリカバーしていただきたい、その論拠として、同規模自治体の平均額が当面のターゲットであるという議論だったと思います。そういう意味では、各委員が発言されたように、現実的な同規模自治体の平均額にとりあえず近づけてくださいということになるかと思えます。その後は、市長の給料水準をどのように考えるべきか、平均額の議論で良いのかという難しい論点はありますが、ここ数年間のトレンドからすると、適正なりカバー水準としては、同規模自治体の平均額というのが当面は妥当な水準であるということだと思います。私自身としては、前年度答申を確実に実行してくださいという意見があっても良いと思ったのですが、28年度の現状を踏まえて、市長給料を考えるほうが良いということによるのかと思います。大変失礼ながら、個人的には、日進市の慎重にじりじり上げたいという気持ちに沿ったほうが分かりやすいのかなと思いましたが、そのことの付度は、市にあるわけで、この審議会としては、さきほど申し上げた論理の筋道で答申するのが適切かと思えます。もっと引き上げるべきという意見もありましたが、現状からすると、そういった意見があったのも事実ですが、さきほどの筋道でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>委 員</p>	<p>(各委員からの異議なし)</p>
<p>会 長</p>	<p>それでは、最初に申し上げたとおり、副市長・教育長のバランスをどうするかという議論は、短い時間の審議で、各特別職の働きの内容を仔細に検討するという力量を持ち合わせているとも思えませんので、前年度の議論も踏まえて、過去の比率と同比率で処理をして、それでいくらになるかについては事務局でもう一度確認していただきたいと思えます。審議会としては、市長給料の望ましい水準を決めましたので、日進市の給与体系のトレンドを維持したうえで、副市長・教育長については、これまでの給料比率を維持するという考え方で整理させていただきます。それでは、議員に戻りまして、日進市の行政を審議する議長・副議長・議員の働きについて、押し並べて円滑に行っていたというのであれば、資料2ページ以降にある資料をもとに、前年度議論した報酬月額を考え方を踏襲してよろしいかと思われませんが、他に意見のある委員の方は</p>

	<p>おられますでしょうか。議員については、市長とは考え方を変えた方が良いという方はおられますか。</p>
委員	<p>議員は別だと思えます。個人的に信用できません。他の市町村で、東日本大震災の後に当選した議員の話ですが、どさくさに紛れて、選挙活動中に寄付を募っていた議員がおり、明らかに選挙違反だと思えます。そういう議員がいる以上は、議員は信用できないと思えます。また、前回お話ししたように、議員がどれだけ仕事をやっているかという議論がなされていません。議員は全く別物であり、本当は日当制とし、基本の報酬を少なくして、後は日当というのが一番良いと思えます。政務活動費は復活しても良いと思えます。ただし、本日の新聞にあったように、後払いにする必要があると思えます。ただし、基本報酬プラス日当制というのは、他の市町村にはないと思えますので、報酬は据え置き又は減額、政務活動費は復活し、申告・後払い制が良いと思えます。ただし、今申し上げた日当制にはならないと思えます。</p>
会長	<p>全ての議員の活動状況をこの審議会が審査するという立場にはないと思えます。一部には、そういう事例もあるかと思えますが、一蓮托生というのも失礼な話かと思えます。この審議会は、サジェスションをする立場であって、ジャッジする立場にはありません。お話のありました政務活動費の扱いにつきましても、審議会としてではなく、一市民の立場で権限のある方々が自ら襟を正すようにご努力いただきたいという声をあげていただくことになるかと思えます。この審議会に関わる問題としては、市長を含む特別職と議員とで同じ考え方をすることは馴染まないのではないかという点がポイントになるかと思えます。この点についても、前年度に議論があったところではありますが、特別職は給料、議員は報酬で違いがありますから、お金を払うスタンスに多少違いがあるのは事実です。資料4ページの議員で説明すると、赤色が現在の額、緑色が前年度の議論を踏まえた額、黄色が本年度の同規模自治体の平均額であり、多少動いているわけですが、この資料で状況が分かるかと思えます。資料4ページの状況を踏まえ、議員活動に対する報酬として、市長と同じ考え方による引き上げが妥当性があるかについて、もう一度再検討したいと思えます。前年度の審議会は、議員についても、同規模自治体の議員の平均額程度には支払っても良いということで緑色（平成27年度答申額）の線で答申させていただきました。今年度は、特別職については、同規模自治体の平均額を基準とする考え方を再確認させていただきましたが、議員についてはいかがでしょうかという点を改めてお伺いしたいと思えます。</p>
委員	<p>議員の仕事が見えにくいという部分はあると思えますが、市のために働くという基本は一緒であると思えます。給料の元々の違いというのは、昔の段階で金額の差が決められていて、そこから、市長等については、働きが増えてきたので引き上げとなったが、議員については、働きが増えてきたとは言えないのもっと差をつけるという根拠は見当たらないと思えます。違った仕事を別々に行っていて、給料の違い自体は、出所は一緒であり、給料の差自体は昔におおよそ決められたところで支給されており、今回、市</p>



	長等の引き上げを行うにあたって、議員は引き上げるべきではないという根拠を持つことはできないので、議員についても、市長等と同じように引き上げて良いと思います。
委員	個別の議員がどういう仕事をしているかはチェックできないし、市長から順番にそれぞれの分担割合で報酬額は決まってくるのかなと感じますので、黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）の線が妥当であると考えます。
委員	私も同様の意見です。ただ、政務活動費については、テレビで言われているのは月額ですが、日進市の場合、年額15万円ですね。
事務局	月額12,500円です。
委員	月額12,500円ということは、年額15万円ですね。他の市町村は、月額が50万円とか60万円であり、年間で700万円とか600万円という額を、給料以外に勉強代に使っているということになります。その部分も実費で頑張っておられるという点や人口割でも頑張っておられる点を考慮すると、市長と同じように黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）の線で答申できればと考えています。
委員	私も黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）の線で良いと思います。労働組合のクリーンキャンペーンに議員が来たり、先週開催された研修会にも日進の議員も来ていました。その機会にコミュニケーションを図ることもできますので、詳しい仕事の内容は分かりませんが、そういう場に来てくれるということで、黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）の線で良いと思います。
委員	私がさきほど申し上げた意見は理想でありますので、そうならないというのは承知しております。
会長	資料4ページで、あえて指すとすれば何色になりますか。
委員	議員については、現状維持です。
委員	結果から言えば、市長に準じて引き上げて良いと思います。ひとつだけ確認ですが、議員の答申も引き上げとなっていたのに、引き上げとならなかったのは、どちらの意向だったのでしょうか。議会の方でも、そういう意向はあったのでしょうか。
事務局	議長等にお話をし、議会の側でも、財政の状況等を説明するなかで、もう1年様子をみたほうが良いという判断をされたものです。
委員	それであるならば、なおさら特別職を引き上げるのであれば、同様に引き上げるほうが自然だと思います。
委員	私も黄色（平成28年度と同規模自治体平均額）の線で良いと思います。
委員	議員は引き上げて良いと思います。議員は、昔と違って、私達の目があるということで、ボランティアをされたりしています。昨日ラジオで、政務活動費が話題となっているが、私達がチェックをしない、議会に参加しない、傍聴しないということで、我々にも問題があると話をしていました。また、行政に意見が言える人が、本当の議員の仕事ができる人とも話をしていました。だから、私達にも責任があるかと思います。また、日進の場合、微々たる金額ですので、そういう問題はないかと思いますが、前払いでは

	なく、後払いにすべきという意見も聞きました。私たちも目に見えてこないが、もう少し議員が頑張っていることを把握しないといけないと思っています。議員の報酬については、引き上げて良いと思います。
委員	活動されている議員もいるかと思いますが、活動されていない議員が非常に多いと思います。私も昨年まで商工会に入っていたが、会議に出てくる議員がいるが、堂々と一等席に座っており、明らかに選挙目当てという議員が色んな意味で多いと思います。私は、申し訳ないですが、議員は、基本は、日当、政務活動費は申告・後払いが理想だと思います。現状がこういうふうにならないことは、分かっております。
委員	私は、報酬を引き上げることで、議員にまちづくり等で一生懸命働いてもらえればと思います。
委員	議員の半分はそうですけれども、半分だけなのです。
会長	議員に幅があるということは間違いないようですが、全議員を一緒にしてしまう議論は難しいということは、はっきりしているかと思っています。
副会長	多くの方が言われているように、新聞報道等を見ていると問題のある議員はいますし、議員に幅はあると思います。しかし、チェックの話は、審議会で議論すべき内容ではないし、選ぶ時のチェックをしっかり行っていくことが課題かなと思います。日進市に本当に良くなってもらいたいと思うと、本当にやる気があって、手を挙げてくれる方には、少なくとも平均程度の報酬は受け取ってもらいたいと思います。ただ、受け取るお金の全体の話がありますので、体系の話は別の話となりますが、少なくとも、審議会が議論しているベースのところでは、出来るだけ良い方に手を挙げてもらって、日進を良くしていただける報酬額にはしたいと思います。
会長	議員は、私達が選んだ代表であって、勝手にやってくださいという話ではないので、適切な方を選び、働きの状況をチェックするのは、市民としての責任というのは他の委員のご指摘のとおりだと思います。選ぶということは、仕事を依頼しているわけなので、やってほしいけれど、お金は出せませんというわけにはいきません。本来なら別の才能で暮らしていける方を、あえて議員として働いていただくということになれば、生活レベルの保障は、当然すべきことだと思います。そういう意味では、議員報酬を適切に設定することは、市民としての責任だと思います。私のような高齢者がボランティアでやりますから、選んでくださいといって立候補したなら、その方に給料を支払わなくても良いかもしれませんが、若い方にやっていただく場合に無報酬でやってくださいという失礼なことは申し上げられません。ボランティアでも生活できる生活基盤がある方はよいですが、議員としての貢献で生活をしていく方がいても当然良いと思います。議員報酬を他の市で働いている方と何ら差別する必要はないので、みなさんのご意向からすると、市長の給料の考え方をターゲットとするということで、方向が見えたかと思っています。議論を活発にさせていただいたことで、みなさんのご意見を伺うことができました。ありがとうございました。ここで、事務局から試算表をご用意いただけるとありがたいと

	思います。
事務局	特別職の試算表を配布し、説明を行う。
会 長	さきほどの市長・副市長・教育長の議論の内容を表に示したものとなります。地域手当を廃止されたということがあり、一見すごい引き上げに見えますが、年額で見ると元の水準に戻したらどうですかという提案となっています。大幅に引き上げを行ったということではなくて、年額ベースでは元の水準に戻すという答申であるをご理解いただきたいと思います。この表の黄色（平成28年度の同規模自治体平均額）の線ということでよろしいでしょうか。
委 員	（各委員からの異議なし）
会 長	黄色（平成28年度の同規模自治体平均額）の線で答申させていただきます。議員の試算表についても、配布をお願いします。
事務局	議員の試算表を配布し、説明を行う。
会 長	結果的に日進のなかでは、議長は他市と比べると平均程度だったが、副議長・議員は相対的に低かったということが読み取れます。議長ベースで行くべきということは必ずしもいえることではなくて、ベースは議員で考えるべきだと思いますので、一番右側の議員の欄がみなさんのご意向だと思います。議長・副議長とのバランスは、現在の日進市のバランスというよりは、この答申の骨子は、同規模自治体を中心とする他市とのバランスをとられてはどうかということが、前年からの議論となります。だいたい議論の方向は揃っているかと思います。市長・副市長・教育長のバランスの審査と、議長・副議長・議員のバランスの審査は、別となります。特別職については、従来の日進市のバランスをベースとしていきますが、議長・副議長・議員については、必ずしも議長は議員の何倍というような考え方で推移していないようなので、同規模自治体ベースという考え方のほうが論理性が高いということになるかと思います。これを踏まえて、議長は前年度答申額と変わりませんが、副議長・議員は、黄色（平成28年度の同規模自治体平均額）の線で答申する形とさせていただきます。それでは、この方針で、次回は答申書（案）をまとめるための審議を行いたいと思います。
事務局	今回審議していただいた額を答申（案）にまとめて、事前にみなさまにお配りさせていただきます。次回は答申（案）を修正いただく審議ののち、答申を行っていただく予定となります。
会 長	非常に活発なご議論をしていただきありがとうございました。事前に配布される答申（案）に修正点があれば、事前に事務局に連絡いただき、次回は確認作業で終わらせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。
閉会	